



Q.ものが、ゆがんで見えるのですが…

回答：市立貝塚病院
診療局長兼眼科主任部長

藤井 節子 医師



A.ものがゆがんで見えたり、見たい所がすすんで見える病気があります。

その一つに加齢黄斑変性症があります。加齢黄斑変性症という病気はあまり聞きなれないかもしれませんが、決して珍しい病気ではありません。

日本では50歳以上の約80人の一人が見られ、患者数も年々増加する傾向にあります。成人の中途失明の主要な原因になっており、発症のリスクは加齢だけではなく、喫煙、太陽光、高脂肪食なども関係しているとも言われています。

その症状、加齢黄斑変性症 かも知れません

中央の黄斑部（視力、色覚に大切な部分）に網膜外側にある脈絡膜から新生血管という正常ではないもうい血管が生えてきます。そのもうい血管から出血し、滲出液が黄斑部の網膜下に溜まります。そのため視野の中心部が見

管の働きを抑える薬で定期的注射を継続する必要があります。また、他にも光線力学療法、レーザー光凝固法があります。

加齢黄斑変性症は、治療せず放っておくと視力が著しく低下します。不可逆的变化を起こす前に、見え方が気になれば眼科を受診して下さい。

当院でも専門的な検査が可能でVEGF阻害薬の内注注射をおこなっています。

原因としては、網膜

にくくなりゆがんで見えるようになります。検査は、視力検査、眼底検査、蛍光眼底検査、光干渉断層計等で診断できます。

主な治療はVEGF(血管内皮増殖因子)阻害薬を眼内に注射します。

原因としては、網膜

VEGF阻害薬は新生血

http://www.hosp.kaizuka.osaka.jp/

問 市立貝塚病院
(貝塚市堀3-10-20)
TEL 072-4222-5000